

## 「ビッグレスキューかながわ 2024」参加報告

事務局 災害対策部 下田栄次

2024年11月23日、神奈川県総合防災センターで実施された「ビッグレスキューかながわ 2024」に、災害対策部部員3名が神奈川 DWAT(災害派遣福祉チーム)として参加しました。本訓練は、神奈川県内で発生する可能性のある大規模地震を想定し、地域の防災力を高め、迅速かつ適切な災害対応力を養うことを目的としたものです。

本訓練では、「避難所における保健医療福祉支援の強化」がテーマとされ、避難所内保健医療福祉活動訓練が、県内において初めて実施されました。会場となった神奈川県総合防災センターでは、体育館を中心に、災害救助訓練ゾーンやヘリポートエリアでも訓練が展開されました。神奈川 DWAT として参加した私たちは体育館での避難所内保健医療福祉支援活動に従事し、多職種と協力しながら、避難者への声かけや健康状態の聞き取り調査、福祉支援を実施しました。避難者役には地域の住民の方々や近隣の学生も多数参加し、より発災後の状況に近い形での訓練となりました。

訓練では、避難所責任者である厚木市職員、医師、保健師、薬剤師など多職種のメンバーとともに事前のブリーフィングを行い、訓練の概要や各チームの役割、そして避難所全体の状況について情報を共有しました。避難所内での優先課題として、介護が必要な高齢者や障がいを持つお子さんなど、支援が必要な避難者の早期把握とその対応体制の構築が重要視されました。こうした課題に対応するため、避難所内での聞き取り調査を実施しました。避難所内を巡回し、避難者役の方々に声をかけるなかで、車椅子を使用している方が避難所内のトイレまでの移動に不便を感じていることや、持病があり服薬の管理に不安を抱えている避難者を確認し、他職種と連携しながら具体的な支援策を検討していきました。服薬管理が必要な方には薬剤師会を通じてアドバイスを提供しました。トイレまでの移動に際し、段差のある場所で移動が困難になっていた方には避難所内の移動評価および自室テント内の生活環境調整を実施しました。また、避難生活が続く中でストレスを抱える方に対しては、精神保健医療チーム(DPAT)と協力し、メンタルヘルスの支援を提供するなど、幅広いニーズに応える活動を展開することができました。

本訓練では、神奈川 DWAT として避難所内での複合的な課題に取り組むことで、理学療法士としての役割を再認識する機会ともなりました。福祉相談ブースの設置により、避難者一人ひとりのニーズに寄り添った支援が可能であることも実感することができました。こうした活動を通じて、避難所における QOL の向上にも貢献できたと考えています。

今回の経験を今後の活動に活かし、神奈川県理学療法士会災害対策部として、地域の防災力向上に引き続き貢献していきたいと考えています。



訓練前のブリーフィング（山崎 元靖氏 神奈川県健康医療局医務担当部長 医師）



訓練の様子